

名古屋地学会第 308 回例会報告

田辺元祥

日時：2015 年 2 月 8 日（日）10:00～16:00

場所：美濃加茂市蜂屋町周辺 参加人数：11 名

みぞれの降る中，第 308 回例会が美濃加茂市周辺で行われた。

集合場所は美濃加茂市民ミュージアム。悪天のため午前中の巡検を美濃加茂市民ミュージアムの展示見学に変更し，案内役を依頼した鹿野勤次氏より美濃加茂市周辺における地質についての解説を受けた。

昼食後富加町加治田において蜂屋累層形成前の火山活動により噴出した蜂屋層堆積物とは岩相が全く異なる流紋岩質の火砕流堆積物の観察及び採取を行った。

蜂屋町広橋では安山岩質の上則友火砕岩層を観察した。数十年間露頭状況が変化していない堆積状況のよくわかる垂直な崖を観察した。また，広橋火砕岩層中にある直径が 1 0m を超える巨岩塊，自破碎溶岩を観察し，堆積環境についての議論があった。

昭和村では近くの蜂屋層中から発見された珪化した直径 3.5m の直立樹幹を見学した。

最後に中川辺ダム下流飛騨川右岸にて中川辺火砕岩の堆積面の産状を観察し，安山岩中の沸石類，方解石，また珪化木等の観察，採取をした。

この巡検において蜂屋累層を形成した火山活動がおよそどのようなものであったか知ることができた。



写真 1. 蜂屋町広橋. 上則友火砕岩層.



写真 2. 中川辺ダム. 中川辺火砕岩.